第５学年
外国語科

「Unit５　Where is the post office ？」目的意識をもって外国語とかかわり，学習した表現を生かして話したり聞いたりする児童の育成

二本松市立杉田小学校　山寺　晶子

１　単元によせる授業者の思い

本学級の児童は，授業の様子や振り返りの記述から，「英語をすらすら話したい。」「友達に伝わるように会話ができるようになりたい。」と目標をもって取り組んでいる児童が多いといえる。

一方で，学習でつまずいた時や解決方法が見つからない時に「自分には無理だ。」と思い，課題に取り組むことをあきらめてしまったり，自分の取り組みに自信がもてなかったりする姿が見られる。

この単元においては，具体的なめあてを基に学習の見通しをもつこと，学習した表現を繰り返し用いると共に，分かりやすく伝えるための工夫を個人や全体で考える振り返りの場を設定することを通して，学習した表現を生かして自信をもって話したり聞いたりすることができるようにしたい。

２　授業の実際

視点Ⅰ　必要感のある課題の設定

①　場所を表す言い方や道案内の表現を用いて話したり聞いたりする必要感のある課題や場面を設定する。

・　単元の初めに“The future of Sugita”をテーマとして提示し，「未来の杉田にあったらよい場所」を自由に想像する活動を行った。その活動を基に，「『未来の杉田にあったらよい場所』を友達やＡＬＴにくわしく分かりやすく伝える」という単元のゴールを設定した。ゴールを達成するために必要なことは「場所を表す言い方」と「道案内の表現」であることを全体で確かめ，単元の計画を立てた。

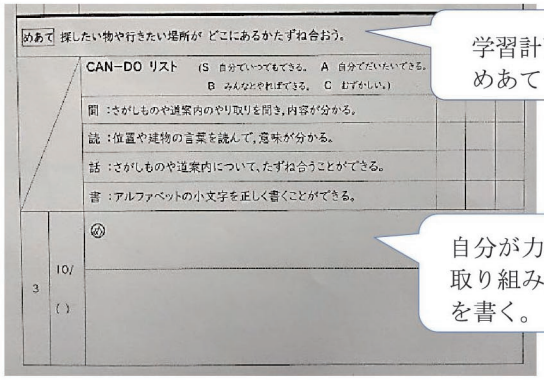
②　本時の学習で目指す姿を具体的にイメージすることを通して，めあてや活動の見通しをもつことができるようにする。

・　前時の振り返りや本時の学級のめあて「友達が行きたいところに行けるように道案内をしよう。」を基に，自分が力を入れて取り組みたいことを振り返りシートに書いた。

＜児童のめあて＞

・“Turn right.”などの道案内の言い方を言えるようにする。

・　ゆっくりはっきり道案内をしたい。



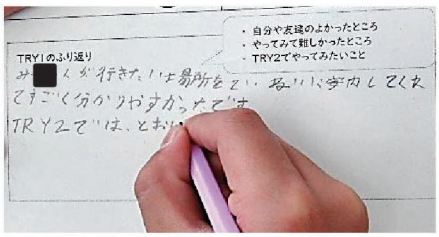
視点Ⅱ　自分の学習状況や成長を具体的に捉えることができる振り返り

①　活動の中間と最後に振り返りを設定することで，できるようになったことを振り返ると共に，次になりたい姿や，自分の表現に取り入れたい工夫を捉えることができるようにする。

○　活動の中間の振り返り

・　〔Ｔｒｙ１〕の活動を振り返って，道案内の仕方や身振りなどのよかった点，難しかった言い方をペアで確かめ合った。その後，〔Ｔｒｙ２〕に生かしたいことを全体で発表して共有した。

＜児童の発表＞



□　はきはきと話していてよい。

□　相手が聞いたときに，すぐに答えられるようにしたい。

○　中間の振り返りを生かして，〔Ｔｒｙ２〕の道案内に取り組んだ。

○　終末における振り返り

・　振り返りの視点を基に，本時の振り返りをシートに記入した。

振り返りの視点
□　どのように取り組み，何ができるようになったのか。（知・技）
□　友達のよい姿や参考にしたい姿。（思・判・表）
□　次の時間に何を学習したいか。（主）

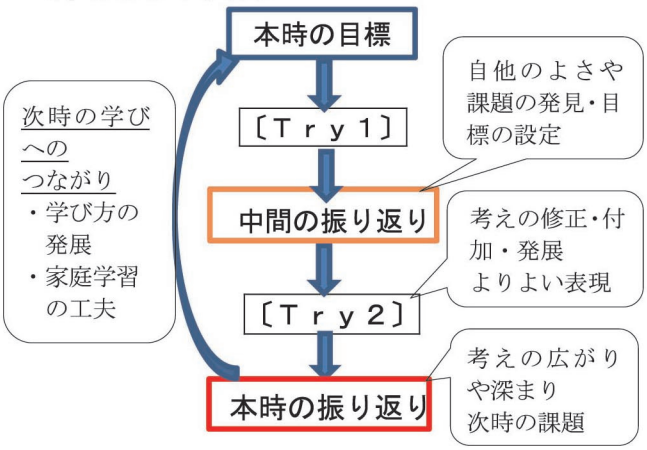
＜児童の振り返り＞

□　苦手だった“for ○ blocks”の言い方を何回も練習したら，言えるようになってきた。

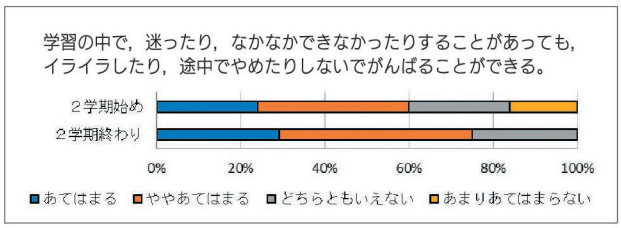
□　○○さんがはっきり言っていてよく伝わったので，自分もはっきりと言えるようにしたい。

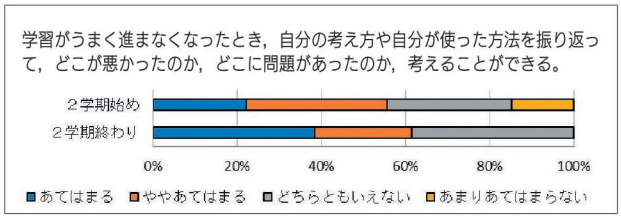
②　振り返りを生かした学びのサイクルを意識し，目標を達成するために必要なことを，単元を通して考えながら学習することができるようにする。

＜学びのサイクル＞



３　子どもの変容





〈考察〉

どちらの項目も「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が増加した。学習の見通しをもつことや振り返りを継続することが，よりよい方法を考えながら，あきらめずに取り組むことにつながったと考える。

４　研究のまとめ（○成果●課題）

【視点Ⅰ】

○　振り返りシートに，本時のめあてに加えて自分が力を入れて取り組みたいことを書くことで，目的意識や学習の見通しをもって道案内のやり取りをすることができた。

●　道案内をする相手が学級の友達や日本語の通じるＡＬＴであり，気軽にやり取りができた一方で，英語を用いる必要感が薄かった。伝える相手を地域の方や中学校のＡＬＴにすることで，伝える必要感が高まったのではないかと考える。

【視点Ⅱ】

○　振り返りの視点を提示することで，授業中の取り組みの様子や，成果を具体的に書くことができるようになってきた。それを次時の初めに紹介することで，自分の取り組みに自信をもち，友達のよさに気付いたり，本時の課題につなげたりする姿が見られた。

●　中間の振り返りの際に，〔Ｔｒｙ１〕の動画や実際のやり取りを見ながら，自分と友達を比較したり，より分かりやすい道案内の仕方を検討したりする時間が必要であった。

実際の指導案はこちらへ▶